

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-4-1	事業名	大通公園スケートリンク・スクエア事業				
担当	観光文化局観光部観光企画課 高谷 211-2376						
全体計画							
事業内容	冬の大通公園における新たな魅力づくりのために、かつて札幌の冬の風物詩であったスケートリンクを大通公園1丁目に設置し、ニューヨークのロックフェラーセンター、セントラルパークのような、摩天楼の中に人の集う憩いの場所を創出する。札幌中心部のテレビ塔やビルに囲まれたリンクは、夜間のライトアップ等により、幻想的な魅力から札幌の新たな魅力として冬の新名所となり、市民はもとより世界中からの多くの観光客がこのスケートリンクに憧れて来札されるような魅力づくりを実施する。			<年度別の事業内容>			
				平成19～22年度 ・スケートリンクの設置及び観光客誘致の促進			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	<p>【事業概要】 設置期間:2月4日～11日 10:00～20:00 設置場所:大通公園1丁目 利用人数:5,083人 雪まつり大通会場1丁目の会場管理者であるジェイコム札幌を中心に、実行委員会を立ち上げ、スケートリンクを設置。オープニングセレモニーには、上田市長、橋本聖子国会議員も出席し、盛大にリンク開きを行った。最高5時間待ちとなるなど、多くの人で賑わいを見せた。</p> <p>【事業費】 収入 札幌市負担金 7,000千円 (株)ジェイコム札幌負担金 5,998千円 雑収入 2千円 合計 13,000千円 支出 スケートリンク造成及び維持管理費 13,000円 合計 13,000円</p>			<p>【事業概要】 昨年同様に、実行委員会を立ち上げ、大通公園西1丁目にスケートリンクを設置。ただ、昨年、利用希望者が殺到し、長い待ち時間が生じてしまったことから、リンクのサイズの拡張や、開催期間の延長を検討する。</p> <p>【事業費】 収入 札幌市負担金 14,000千円 民間企業負担金 11,000千円 合計 25,000千円 支出 スケートリンク造成及び維持管理費 25,000円 合計 25,000円</p>			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
利用者数		-	5,083人	7,000人	9,000人	1万人	1万人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 市民に対しては、各メディア及びホームページ、リーフレットを通し、適時情報提供を行い、周知を図りながら、事業を推進していくよう努めた。また、外国人観光客の対応のため、外国語ボランティアにもご協力いただいた。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 会場管理者からの協力 [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 会場管理者であるジェイコム札幌と連携し、広く協賛企業を募った。</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	5-4-1	事業名	大通公園スケータング・スクエア事業			
評価(成果)			課題			
<p>本事業を実施したことにより、スケートをしながら雪氷像を見るというシチュエーションをつくり、雪まつりに新たな魅力を加えることができた。また、最高で5時間待ちという状況があったことから、本事業に対する関心は強いものと考えられ、実施により、大きな集客交流資源へと成長するものと考えられる。</p>			<p>来場者に対して、リンクが手狭であるため、長い待ち時間が生じることとなり、来場者サービスの観点から、対策を講じる必要がある。また、安定した運営を行うため、今後も広く協賛・協力を募り、事業費の確保を図る必要がある。</p>			
今後の事業の予定・方向						
<p>平成19年度、長い待ち時間が生じたことを受けて、平成20年度以降、リンクのサイズの拡張や開催期間の延長を検討していく。これにより、来客数の増加を図り、また、市民にも気軽にスケートを体験できる機会を提供することで、冬期間の楽しみの一つとして、再認識していただき、市民生活の向上にも資する。</p> <p>運営については、今後も雪まつりの会場管理者と連携し、本市の支出負担や事務量の軽減を図る。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	25,000	45,000	45,000	45,000	160,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
予算	事業費	7,000	14,000	-	-	21,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債	0	0			0
実績	事業費	7,000	-	-	-	7,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				13.1%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
<p>(全体)</p> <p>計画では直営方式を想定して事業費を見込んでいたが、実際の事業実施にあたっては、実行委員会方式を採用したことによりその他協賛収入等(計画事業費:19年度18,000千円、20~22年度各25,000千円)は計上しなくなった。このため計画事業費と予算事業費に差異が生じている。ただし、これは事業の実施方法に変更があっただけであり、実施内容には変更はない。</p> <p>[19年度]</p> <p>[20年度]平成20年度は、リンクのサイズの拡張や開催期間の延長のため、事業費の再精査を行い、14,000千円の事業費で行うこととした。</p>						